

講義名	経営管理演習			授業形態	
担当教員	瀧本 隆弘	開講期・曜日・時限	通年 金曜日 2時限		
		単位数	6	履修開始年次	2年生

主題と概要

本演習では修士論文作成を視野に入れて、問題意識から研究テーマの選定、文献の選択、調査計画の策定、仮説のたて方と検証の方法、結論の書き方の指導を行う。
 演習後半は、受講者が交代で研究テーマに沿ったプレゼンテーションを行う。自分の報告だけでなく、他の受講者の報告に賛し、有益な質問や助言を提供したり、また教員とのやり取りの中で学術的な研究方法を学ぶ。

到達目標

修士論文執筆が本演習において、経営管理と関連づけをとったテーマ設定を行い、参考資料や文献の検索・収集、論文のフレームワークや仮説から検証そして結論へと至る論文構成を考えることで、自己の修士論文執筆の基礎作りから、論文完成までの過程をたどることができる。また、レジュメを作成し、プレゼンテーションを行うことで、公聴会や口頭試問へ向けて論文発表のスキルアップを目指すことができる。

提出課題

演習では受講者によるプレゼンテーションを行う。
 そこでは以下が提出課題として求められる。
 ・報告に関するレジュメとレポートを提出
 プレゼンテーションについての詳細は、演習開始後、受講生と相談の上決定する。
 テーマについては、自己の研究テーマに沿ったものが、経営管理分野に限定するかは未定

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

少人数クラスが想定されるので、プレゼンテーションやレポートの講評については、演習中にクラス全体に向けて行う。

評価の基準

・プレゼンテーションとレポート 70%
 ・演習への貢献度 30%
 貢献度は、演習への出席状況、発言回数、発言内容、などで総合的に判断する
 演習は対面型講義で行われるが、新型コロナウイルスの蔓延状況により形式変更の可能性がある。
 演習形式の変更があった場合でも成績評価方法は変更しない。

履修にあたっての注意・助言他

キャンパスクロス、流料ポータルからのメールを定期的にチェックする習慣を持つこと。
 告知は演習中に全体に向けて行われ、そのあとキャンパスクロス等にアップする。
 不明な点は必ず教員に問い合わせること。
 教員のメールアドレスは「備考」のところで開示する。
 演習では以下を実施する。
 ・修士論文テーマの検索
 ・テーマに沿ったプレゼンテーション
 ・プレゼンテーションのレジュメ作成と配布
 ・プレゼンテーションのレポート提出
 プレゼンテーションについての詳細は、演習開始後、受講生と相談の上決定する。
 プレゼンテーションは、論文の進捗状況に応じて随時行なう。
 プレゼンテーションの実施は、パワーポイントを使用すること。

教科書

.使用しない。					
---------	--	--	--	--	--

参考図書

.大学生と大学院生のためのレポート・論文の書き方第2版。	吉田健正	ナカニシヤ出版	1650	4888488681
.経済論文の作法第3版 勉強の仕方・レポートの書き方。	小浜裕久/木村福成	日本評論社	1980	97845355683
.レポート・論文の書き方入門第3版。	河野哲也	慶応義塾大学出版会	1100	9784766409697

その他

<プリント資料>
 テキストは決せず。講義時に毎回資料を配布する。講義中に配布するが、流料ポータルからダウンロードする場合もある。
 <参考文献>
 戸田山和久『最新版 論文の教室 レポートから卒論まで』2022年
 明石秀彦『社会科学系論文の書き方』2019年
 新藤ノ高尚達『学術論文の技法 新訂版』2005年
 伊丹政之『創造的論文の書き方』有斐閣、2001年
 桜井雅夫『レポート・論文の書き方改訂版 上級』慶応義塾大学出版会、2003年

授業計画

1. 演習と修士論文について 研究の方向付け（良い研究とは何か）
2. 論文を書く（1）テーマ、問題意識、仮説など
3. 論文を書く（2）論文の構成、先行研究と引用、注記など
4. 論文を書く（3）事例を基にした具体的考察
5. 論文を書く（4）事例を基にした具体的考察
6. 受講者による問題関心についてのプレゼンテーション、ディスカッション
7. 受講者による問題関心についてのプレゼンテーション、ディスカッション
8. 受講者による問題関心についてのプレゼンテーション、ディスカッション
9. 受講者によるプレゼンテーションとディスカッション（1）（テーマ、問題意識、研究目的、方法など）
10. 受講者によるプレゼンテーションとディスカッション（2）（テーマ、問題意識、研究目的、方法など）
11. 受講者によるプレゼンテーションとディスカッション（3）（テーマ、問題意識、研究目的、方法など）
12. 受講者によるプレゼンテーションとディスカッション（4）（テーマ、問題意識、研究目的、方法など）
13. 受講者によるプレゼンテーションとディスカッション（5）（テーマ、問題意識、研究目的、方法など）
14. 受講者によるプレゼンテーションとディスカッション（6）（テーマ、問題意識、研究目的、方法など）
15. 受講者によるプレゼンテーションとディスカッション（7）（テーマ、問題意識、研究目的、方法など）

授業形態（アクティブ・ラーニング）

<input type="radio"/> PBL（課題解決型学習）	<input type="radio"/> イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
<input type="radio"/> オ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
<input type="radio"/> オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

演習で使用するスライドや資料は流料ポータルにアップしてあるので、自分でダウンロードして、予習・復習に使用すること。必ず1週間前には資料をキャンパスクロスにアップします。
 演習中にダウンロードの指示があったら、次回の講義に合わせて随時予習をすること。また、ダウンロードは前期終了時まで可能にしてあるので、復習にも使用すること。
 大学院は研究を行うことが主目的であるので、修士論文完成のためにはできるだけ時間を研究活動に投入するべきである。準備学習に必要な時間というなら、すべての時間を研究に充ててほしい。最低でも予習2時間、復習2時間は必須である。
 日常的に、新聞、ビジネス雑誌、Netのニュースなどをチェックして、企業に関わるタイムリーな話題に接してほしい。また、参考文献は図書館に配置されているので、それらを活用してもらいたい。
 日常生活における日本語能力と大学院での研究における日本語能力は同じではないという認識を持ってもらいたい。専門分野の日本語をどの程度理解できているか、もし不十分であると思うなら、それを補う努力をしてほしい。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

この演習では、様々な業界における企業経営の仕組みや組織行動の現状分析を行い、経営理論に基づきながら仮説、検証を通して答えを導き出す問題解決型思考を養う。これにより、修士論文完成へ向けて、企業経営の具体的な改善策や解決策の提案ができるようになる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

演習でのIT機器の積極的利用およびITツール持ち込み許可を前提として以下を目指す。
 ・院生のモチベーションを上げる。
 ICT教育で使用するITツールによって画像や動画を活用した効果的な演習運営を行うことができ、院生の修士論文完成へのモチベーションが高まる。また、ITツールを使用した主体的・協同的な授業が出来ることで院生の論文作成へのモチベーションを高めることができる。
 ・院生在演習に積極的に参加できる。
 院生は全員留学生なので、発言が苦手な院生でも、ITツールを通じてコミュニケーションが十分にとれ、論文作成の演習に積極的に参加できる可能性が広がる。
 ・効率的に授業を行うことができる。

実務経験の有無及び活用

実務経験なし

備考

不明な点は担当教員や教務部に必ず問い合わせること。
 状況変化に合わせた対応に留意すること。
 以下のオフィスアワーを利用して教員とコンタクトをとること。
 オフィスアワー： 研究棟 1階 111号研究室 月・水・木 12:10-12:50
 問い合わせについては以下の公開された電子メールでも対応する。